

大障教ニュース

新転任歓迎実技講座

歌って遊んでつながって!

二本松はじめさん

5月19日、「つながりあそび」つた研究所所長の二本松はじめさんを講師にお招きして、新転任歓迎実技講座「す」技! つながりあそび」を開催しました。各職場からたくさんの申し込みがあり、当日は70人を超える参加者で、会場は歌声と笑顔に包まれました。

あいさつの歌「元氣いっぱい」に合わせて自己紹介をした後、いす取りゲーム「ひっこし」をしました。いす取りゲームでは、絶対にお尻から座ったらダメ! いすは子どもの数だけ置いておくんだよ。自分が座れるいすがあると安



二本松はじめさん

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905



会場は笑顔でいっぱいでした

心だからね」など、子どもが安全に安心して遊べる注意事項やアドバイスをいただきました。また、「みんな鬼なんて嫌だよ」と、一番遅く座った人が鬼ではなくリーダーになるというルールに、二本松さんの優しさを感じた人は多かったことと思います。

「ひっこし」の次のバージョンは、リーダーとじゃんけんをして移動するもので、勝ち負けの意味が難しい子でも、「あいこ」ならわかりやすいよね。『あいこ』の人はそのまま、勝った人と負けた人が移動しよう! 子どもに合わせるのが専門性だよ! ゲームをしてつらい思いをする子や、悲しい思いをする子をつくらないでね」と、実技の合間に話される二本松さんの言葉は、どれも大変意味の深いものでした。

「お山のぼりまじょ」は1合目、2合目、と歌いながら腕を山に見立てて頭まで登っていく遊びですが、二本松さんは子どもに、山に登ったら降りなきゃ」と言われ、降りる遊びも作られたそうです。「おーかえり」と言い合つた子どもの発想だったそうです。「でんしゃ」ののって「ゴゴゴー!」だるまさんがころんだでは参加者は本気で走っ



電車に乗ってゴゴゴゴ!

て本気で悔しがって、童心に戻りました。最後は全員で、手話を交えて、君からもらった宝物を歌いました。明日もともだち、ずっとともだちの歌詞は優しいメロディののって、皆さんの心に届いたことと思います。その後二本松さんは、市役所に20年勤務していたこと、労働組合に入って執行委員もしていた「自身の体験を語り、今、人と人とのつながりが断ち切られている。だからつながることが大切。戦争の時代に戻されようとしている今だから、私たちはつながって団結していかなくっちゃ。先生たちの場合は教職員組合だよ」と熱く語られました。二本松さんの実技講座は、子どもと心を合わせて遊ぶ楽しさを教えてくれながら、同時に、「学校は間違つところ。でも今は、先生が間違えることは許されない時代になってるよね。わからないことをわからないと言えることが大事だよ」と私たちを励ましてくださった講座でもありました。

参加者の感想です!

- 時間を忘れるくらい楽しませていただきました。この講座は実践に使えることばかりで、明日からの授業に取り入れていきたいと思ひます。
- とても楽しい雰囲気の中での活動ばかりで、思わず講座だということも忘れてのめり込んでしまいました。
- 歌って動いてつながって、気持ちがあたたかくなりました。明日からまた顔晴(がんば)りたいです。
- 楽しかったです。前向きでイヤな気持ちにならない遊びばかりで感動しました!
- 自分も心が少しずつ開いていき、最後には開ききってびっくりでした。私もこんな風に子どもたちの心を開いていきたいです。

大障教ホームページアドレス <http://www.1a.biglobe.ne.jp/fushou/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



クロネコヤマトで知られる宅配便最大のヤマトホールディングスが、過去2年間の未払い残業代190億円を支払うと、今年の春闘で労働組合に正式に回答しました。対象はフルタイムで働く8万2千人のうち、宅配などを担うセールズドライバーら4万7千人で、1人当たり40万円を超える計算です。しかし、賃金未払いの効効は2年のため、ヤマトは2年分しか払わない方針です。

未払い残業問題を最初に告発した2人の元セールズドライバーによると、出勤は朝7時50分、午後夜・夜と1日3回担当地域を回って、1日およそ200個の荷物を配り、その合間に集荷もします。昼食は運転しながらおにぎりで済ませ、夜10時過ぎに終わるまで休憩も取れません。残務処理をして職場を出るのは、夜0時を過ぎることもあります。2013年にアマゾンを抱つようになつてから、過酷さに拍車がかつたといひます。

ヤマトは、タイムカードがあるにもかかわらず、配達集荷用の携帯端末で、勤務時間管理をしていました。端末は朝8時に電源を入れ配達が終わると切るため、その前後に仕事をしても賃金は支払われない仕組みです。昼休みが取れなくても1時間取つたことにされるといひ、違法なサービス残業システムです。

首相もこの問題を国会で追及され、会社全体の徹底的調査が必要だと答へざるを得ませんでした。この答弁の翌日からヤマトは全社的調査を始め、190億円の支払いを決定しました。たつた一人から始まつた労働者のたたかいが巨大企業を動かし、巨額のサービス残業の存在を明るみに出したのです。

別冊歓迎転任のつどい

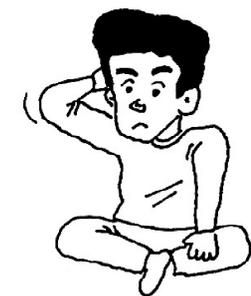
第3回 「北摂豊能ブロック・新転任歓迎のつどい」

子どもたちの生活や育ちの過程に思いをはせよう

4月29日、北摂豊能ブロックの「新転任歓迎のつどい」が、たかつガーデンで開催され、中津・豊中・摂津の各分会が参加しました。

「つどい」ではミニ学習会として、丹治一哉さん(摂津支援)、中元正文さん(豊中支援)が、職場づくりのとりくみをはじめ、自分自身が若い頃に先輩教師から学んだことなどをもとに報告を行い、その後、意見交換や交流を行いました。

小学部の同僚とも相談して、「校歌に手話をつけよう」というプロジェクトチームを発足したそうです。様々な苦労の末、手話付き校歌のDVDが完成しましたが、そこに至るまでの歌の録音等の作業には、管理職を含め多くの教職員が関わりました。このとりく



みを行ったことで、開校直後の職場づくりのために、一つの役割を果たせたのではないかと、丹治さんは振り返りました。中元さんは、「子どもたち・保護者に寄り添う」として報告しました。堺養護・茨木養護、そして現任校の豊中支援での実践経験

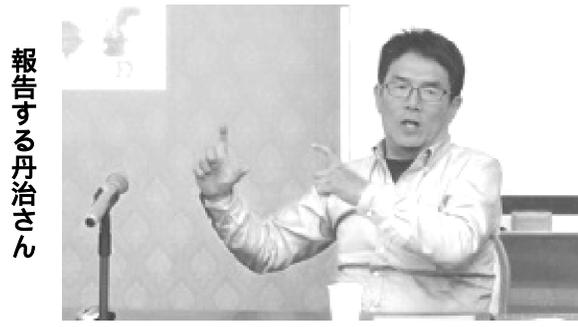
の中で、子どもたちの生活や育ちの過程に思いをはせることの大切さを実感できた経験が、先輩教師から受けた叱責の思い出と共にリアルに語られました。特に、重度の肢体不自由の子どもたちが、「過保護に育ったからこそ生きてこられたのではな



いか？」とあるベテラン養護教諭から強く問われ、自分の子どもの方が未熟だったことに気が付いた工ピソードは、印象的だったと思います。お二人の報告を受けた交流では、子どもの目標設定や評価のあり方、形骸化された職員会議の問題など、各職場の様々な課題が出

丹治さんは、「校歌に手話をつけてみた！」知的に転勤して一年目！一人の講師の先生との出会いを通して」と題して報告しました。

2012年4月に生野聴覚支援学校から、開校直後の摂津支援学校に強制異動となり、「ここで仕事ができるんやるか？」と不安な思いでいっばいだった時に、たまたま職員会議で前に座っていた聴覚障害のある同僚と出会ったことから、報告が始まりました。その後、学校長や所属学部である小学部での話し合いを経て、彼の情報保障の対策が



報告する丹治さん

つくられていきました。そんな中で丹治さんは、「せっかく彼がこの学校にいるのだから、もっと手話をアピールして色んなことができるのでは...」と考え、彼や



泉南支援学校分会 奥野代議員

大障教定期大会発言ダイジェストその1

世の中に視点を向けるよう若い人たちに伝えていきたい

「新聞全教」4月号に泉南支援学校分会が紹介され、分会長の僕の顔写真も載りました。僕自身15年間奈良県の養護学校で教員をしていたので、大阪からは全く反響がなかったのですが、

奈良県からは「読んだよ」「懐かしいです」「元気で頑張ってるね」などとラインやメールやはがきをいただいて、うれしかったです。今、日本国憲法が大変危機的状況に陥っています。日本国憲法があるからこそ我々の人権が守られている

と思います。秘密保護法や共謀罪とかで、反体制的な人たちに、賃金のことだけで、組合に入るよう誘っていました。でもこれからは、組合の活動の中で、社会のあり方や、世の中へも視点を向けていなければ、弱い立場の障害のある子どもたちの教育条件は守れないことや、自分たちの自由な論議も守れないことを、分りやすく伝えていかなければなりません。若い人たちに対して、自由な教育実践ができなくなり、職場でモノが言えなくなるということを伝えていきたいと思